

## 平成24年度 八洲学園高等学校事業計画書

### 1. 施設の概要

#### (1) 設置会場（キャンパス）一覧

名称	所有区分	郵便番号	所在地	電話番号	FAX 番号
本校事務センター	法人所有	593-8327	大阪府堺市西区鳳中町7-225-3	072-262-5849	072-262-8282
堺本校	法人所有	593-8327	大阪府堺市西区鳳中町8-3-25	072-262-8281	072-264-0950
梅田キャンパス	法人所有 →賃貸	530-0003	大阪府大阪市北区堂島2-3-29(平成24年8月移転予定)	06-6343-1173	06-6343-1174
三宮キャンパス	賃貸	651-0086	兵庫県神戸市中央区磯上通8-1-33 幸和ビル2F	078-261-2835	078-261-2836
横浜分校	法人所有	220-0021	神奈川県横浜市西区桜木町7-42	045-312-5588	045-312-5606
新宿キャンパス	賃貸	160-0022	東京都新宿区西新宿7-11-18 711ビル7F	03-3225-5491	03-3225-5494
池袋キャンパス	賃貸	171-0022	東京都豊島区南池袋3-11-10 ペリエ池袋4F	03-5954-7391	03-5954-7503

### 2. 学生（生徒）の概要

#### (1) 設置課程・学科・収容定員・在籍者数一覧（平成23年5月1日現在）

設置課程	設置学科	入学定員 (人)	①収容定員 (人)	②正科生 在籍者数 (人)	③技能連携 在籍者数 (人)	④聴講生数 (人)	収容率 (%) (②+③) ÷ ① × 100
通信制課程 (広域)	普通科	※※※※※※	3,000	2,222	387	257	86.96 %

※④は通年での登録者数

#### (2) 平成23年度入学者数・卒業者数・転学者数・退学者数・除籍者数予測一覧 ※ 3月初旬の対象者数値のため、予想値

	入学者数(途中転編含む)	卒業者数	転学者数	退学者数	除籍者数	増加予測人数
正科生	1,059	901	5	16	約278※	-141
聴講生	141	—	—	—	—	—

### 3. 教職員関係

#### (1) 平成24年度管理職の概要

職名	氏名	備考（留任・新任等）
校長	二宮 聡	留任
教頭	松本 好史	留任
教頭	林 周剛	留任
事務長	島野 和美	留任

#### (2) 平成23年度教職員の概要（平成23年5月1日現在）（教員）（ ）は管理職の数。非常勤講師 関西一堺本校、関東一横浜に集約。

		合計（人）	堺本校	事務C	梅田	三宮	新宿	池袋	横浜分校
教員	本務	34（内、常勤3名）	7（2）	1	6	4	5	4	5（1）
	非常勤	66（内、派遣2名）	46						20
職員	本務	7（内、常勤1名）		2（1）	1	1			1
	兼務	8	1	6				1	

↓ ↓ ↓

平均年令 ①専任・常勤の平均 教員 男 36.2歳 女 34.3歳 職員 男 42.0歳 女 37.7歳

②非常勤講師の平均 男 58.2歳 女 36.2歳

※ 技能連携校委嘱非常勤講師→27名（5校）は上記概要より除く

平成24年度予定 ( )は管理職の内数。非常勤講師 関西一堺本校、関東一横浜分校に集約。

	採用区分	合計(人)	堺本校	事務C	梅田	三宮	横浜分校	池袋	新宿
教員	本務	30(内常勤4)	6(1)	2(1)	5	3	6(1)	4	4
	非常勤	70	50				20		
職員	本務	6	1	3(1)	1		1		
	兼務	9		6		1		1	1

#### 4. 事業の概要

##### (1) 事業の概要

少子化は元より教育特区(株式会社)立の通信制高等学校が約30校開校し、通信制高等学校に関連する多様な教育の場が全国に1,000箇所以上乱立する状況である。その影響も少なからず受け、さらに公立高等学校の無償化、私立高等学校等就学支援金制度の導入による全日制高等学校などへの専願者の増加など、入学者数は依然として減少傾向にある。

しかし、不登校や怠学傾向にある生徒の問題は増加傾向にあり、ニート・フリーター層の増加が社会問題になっている状況で、通信制・単位制高等学校としてのニーズは依然として必要不可欠の制度として社会的にも認知されている。

当校としては、そうした問題について、開校以来一環として次のように取り組んできた。学習しやすく個々の生活スタイルに合わせた単位修得のシステム、教職員の温かく親身な指導・対応、生徒・保護者をはじめ、中学校・高等学校にも浸透している。

しかしながら、生徒を受け入れる体制がシステムの古くなり、多様な生徒をさらに個別に対応して行く中、更に洗練されたシステムの構築が急務である。そこで、23年度からは高卒コースの通学クラスを、1週間フラットな形にしスリム化の中で、より通いやすいコース編成にし、自作の視聴覚教材(オンデマンド方式)によるスクーリングの多様化に取り組んでいる。さらに心理カウンセラーを導入し、生徒・保護者の相談体制を強化する。定員に見合った入学者の確保を目標に事業をスリム化し、人件費の高騰を抑え、私学として健全な経理・経営状態を保つよう運営し、学園全体の基幹学校としての意識も持ちながら努力している。

さらに、通信制高校の自学自習というスタイルでは卒業に至らない生徒が、近年は増加傾向にあり、従来の授業料体系と学習指導運営では、対応できない状態が表出してきた。そこで、十分な指導が出来るサポート運営を高校自らが行うシステムを取り入れ、高等学校通信制教育を補完すべき学習内容を、不登校傾向の生徒には「基礎学力」と「コミュニケーション能力」を中心にサポートするもの、学校に登校できるが自学自習が厳しい生徒には「その指導を受けてもらい易い学習環境を提供」し、さらに引きこもりや在宅で学習を希望する方には「家庭訪問指導」を行い学習の機会を提供する3つの学習サポートを実施するクラスを、附帯事業として行う計画を立てた。

## (2) 主な事業の目的・計画及びその進捗状況

当校においては、施設設備の改修計画および大阪府からの不適切施設改善計画の一環として、横浜分校を八洲学園大学の所有する校舎の2フロアを賃借し運用を開始、平成22年10月大阪府より分校認可を受けた。また、新宿スクーリング会場については、校舎老朽化や周囲の環境が著しく悪化していることもあり、在校生の安全確保・教育環境改善・防災上の観点から、学園内部留保していた賃料(3,600⇒2,800/万円)および建物管理維持費の大幅な(年平均300⇒20/万円程度)削減により運営が可能な賃貸建物への移転を平成22年度9月に完了、新宿区西新宿7丁目(711ビル)において運用を開始した。

平成24年度は、梅田についても、現在の西梅田地区から大阪駅前第一ビルへの移転を行う。また、通信制の学習指導を、本校分校を軸に行い、スクーリング会場をキャンパスと呼称する学習拠点に移行する事により、教育の目的を二分化することで対応する事に大きく舵を切ることになった。

### ① 主な事業の計画

年度	事項	概要	進捗状況
平成24	生徒募集計画について→附帯事業計画開始 「サポートクラス」	八洲学園高等学校は生徒数および収入の減少が続いている。この収入減少状態を改善する為に平成24年度より生徒募集に繋がる新規計画を実施する。計画内容は下記報告する。	平成23年度第二回役員会にて承認。 平成24年度より募集開始。
平成24	梅田スクーリング会場(梅田キャンパス)移転について	生徒数に適した規模での運営を行うため、平成24年8月に梅田スクーリング会場を移転し、施設は八洲学園法人に返却する。移転先の内容は、下記報告する。	平成23年度第二回役員会にて承認。

② 施設・設備の整備計画

なし

(3) クラス説明

① 堺本校・横浜分校 3day クラス、短期集中クラス

対象者：『自学自習で学習を進めることができる方。学校には必要最低限のサポートを望み、その分学費負担が少なくしたいと考える方』通学形態は2種類選択することができる。視聴報告書は規定時間枚数を提出することを必須とし、スクーリング必要時間数は、視聴時間を差し引いた時間とする。

・3day クラス

スクーリングを月・水・金の週3日間、4月中旬～7月初旬、10月中旬～1月中旬の期間で実施するクラス。集中して登校できない方対象のクラス。特別活動やその他行事も原則月・水・金で行い、登校日以外の曜日、日程での登校はできない。

・短期集中クラス

スクーリングを8月、2月の期間で集中して実施するクラス。3day クラスとの違いは通学形態のみ。自学自習をできる方で、最小の通学日数で単位を修得したい方、平日に複数回の休暇を取りにくい方、ダブルスクールで専門学校に通学されている方、疾病等の理由で複数回外出ができない方を対象にしているクラス。

② サポートクラス

高校卒業の為の学習をスタッフが100%サポートするクラス（100%サポート以外の特色は各サポートクラスの項目で説明）すべてのサポートクラスの在籍者はオプションプログラムに登録することができる。サポートクラスは、『毎日学校に通学したい』、『外出がまったくできない』、『自宅での学習サポートをして欲しい』、『専門的な技術を学びたい』、『毎日通学はできないが、自学自習ができないので週に何回かサポートして欲しい』、『友達を作りたい』などの要望に答え、サポートをする。

・ベーシックサポートクラス

半期間で15週、週3日間（月・水・金）、1日6時限を開講する。オプションプログラムを入れると、週5日間登校することができる。

きるクラス。高校の学習内容ばかりではなく、小学校・中学校の内容を含めた基礎学習や漢字・英語・簿記検定などの検定学習、進路や就職に繋がる面接練習や、一般常識学習など、様々な内容のベーシック（基礎）部分をサポートする。

### 時間割例

	月	火	水	木	金	土	日
1 時間目	基礎学力	オプション プログラム	基礎学力	オプション プログラム	基礎学力	休	休
2 時間目	教養／キャリア		教養／キャリア		教養／キャリア		
3 時間目							
昼休み							
4 時間目	クラブ活動	(オプション プログラム)	レポート学習	(オプション プログラム)	レポート学習	休	休
5 時間目			視聴報告学習		視聴報告学習		
6 時間目							

※視聴報告学習は、レポートとメディア視聴のサポートを行う。レポート・視聴報告が終了している生徒は、出席せずに帰宅することができる。

※オプションプログラム以外は、キャンパスへの当校日は月・水・金の週3日のみ

※クラブ活動は、運動部、文化部に別れ、自由に選択できる（運動部の種目、文化部の内容は、キャンパス毎に設定）

#### ・オプションプログラム

半期間で15週 火・木 1日3時間（AMかPM）合計90時間実施するプログラム。各サポートクラスに所属する生徒が、任意で登録することができる（ベーシックは費用含むため、選択で登録）。美容・アニメ・ペット・スポーツ医療・コンピューターなどの分野の専門学校と連携。オプションプログラムで連携している専門学校と指定校推薦や学費免除特典などの進学優遇の流れを組み、入学金免除や授業料割引・優遇入学など進路保障を行うことができる。

#### ・ホームサポートクラス

対象者は、不登校生、疾病等の理由で療養中等の理由で外出ができない方。スタッフが家庭訪問によるスクーリングを実施する。ホームサポートクラスの申込者は、マイスタイルサポートクラスに自由に参加することができる。

一定時間の家庭訪問は八洲学園高等学校の職員で実施し、その他の学習時間は専門の家庭訪問スタッフで行う。  
 ホームサポートスタッフのスケジュールは関西：堺本校、関東：横浜分校で一括管理する。  
 家庭訪問で一部対応できない地域もある

・マイスタイルサポートクラス

対象者は、堺・横浜の3dayクラスや短期集中クラスでは学習に不安があるが、週に何回も通学できない方、卒業までの必要単位数や在籍期間が残り僅かで、ベーシックサポートクラスのように毎日の通学を希望していない方。  
 週に3回、RH学習指導で高校卒業を100%サポートするクラス。ベーシックサポートクラスで、ある程度学習内容を終了した学生や、ホームサポートクラスで通学に切り替えたいと思う学生の受け入れ先のクラスでもある。

時間割例（マイスタイルサポートクラス）

	月	火	水	木	金	土	日
午前	自由時間	休 (OP)	自由時間	休 (OP)	自由時間	休	休
午後	レポート学習 視聴報告学習	休 (OP)	レポート学習 視聴報告学習	休 (OP)	レポート学習 視聴報告学習	休	休

サポート授業は1週間で3時間×3回の設定で実施し半期15週。全135時間。

火曜・木曜日はオプションプログラム（OP）の選択が可能。

③ 学費詳細

クラス	「通学クラス」 「堺・横浜 3day・短期集中クラス」	ベーシックサポートクラス	オプションプログラム (OP)
学費	授業料 1 単位 8,000 円 入学登録料 20,000 円 ID システム利用料 10,000 円 諸経費 20,000 円	学費 48 万円 (年間) オプションプログラム費用 込み (必要な道具は実費分 本人負担)	学費 6 万円 (半期) ※ 専門講義の際に必要な道具 は実費分本人負担 ※

	ホームサポートクラス	マイスタイルサポートクラス
学費	年間 28 万円 家庭訪問費用 1 時間 8,000 円 交通費込み	年間 28 万円

④ 授業料変更等

		概 要
平成 24 年度	授業料変更はなし 附帯事業のサポートクラス「学費」については、上記を参照	平成 24 年度入学生より

⑤ 卒業者数、就業者数、学位授与数の見込みについて

当校において、転編入生の割合が 7 割強で、在学年数制限がないことで、正確な卒業率を計算するのは困難であるが、入学者数から卒業生を割った単純計算では、平成 16 年度以前は 7 割に満たなかった率が、近年では 8 割を超えている。取得単位数の年次設定の緩和から、除籍者・退学者も減っている。22 年度後期からは、スクールカウンセラーを導入し、生徒・保護者の悩みや相談への対応を整備し、さらにサポートクラスで多様な生徒を受け入れる通信制高校としての地盤を固めていく。

⑥ 学生生徒の就職、進学状況について (24 年 3 月卒業予定者 関西 406 名・関東 342 名・技能連携校 98 名 合計 846 名の内  
大学進学者：75 名 短期大学進学者：17 名 専門 (各種) 学校進学者：95 名 就職内定者 (学校斡旋のみ)：5 名 (H24. 3. 15 現在)



⑦ 教職員採用・退職計画

年 度	事 項	概 要
平成 24 年度	教職員採用（1 年契約:常勤・非常勤講師・パート・アルバイト）	常勤講師（1 年契約・4 名）、 非常勤講師（1 年契約・約 7 0 名）、パート・アルバイト（1 年契約・7 名）
	附帯事業計画分	サポートスタッフ 1 0 名程度

⑧ 今後の課題について

例年大阪府より、不適切施設の改善計画を出すように指導を受けている。大阪府のガイドラインが平成 13 年に作られたもので、現行の国の設置基準より厳しいなど諸問題がある。

当校としては施設的な改善を図る方向から、スクーリング会場を学習サポート指導を中心とした「キャンパス」と呼称する附帯事業としての教育活動を重点的に指導する機能に変換する方向に切り替えていく。将来的には、面接指導は堺本校・横浜分校で実施する事を基本線におく計画を進めている。

いずれにせよ、授業料収入の安定を図り、附帯事業収入の増にも努力し、健全な教育活動と安定した学校運営を推進していく。

5. 財務の概要（別紙参照）

通常の授業料収入については、入学生徒数見込みを昨年度比 90%で計上しております。

平成 24 年度の予算では、このような状況に対応できるよう、収入減を予想した上での支出を編成いたしました。経費については、各項目とも吟味精査し計上、外注による費用方を出来るだけ抑制し、校務運営をよりスリム化し、効果的な広報費の精選などにより抑えてまいります。

また、人件費につきましても、根本的な賃金体系の見直しと高騰抑制を主眼とし、業績に比例するよう努力し、教職員の雇用確保を図りつつ、全体による手当て賞与の抑制を実施しながら、人件費全体を抑えております。また、大阪府の補助金削減に対応しつつ、通信制高校間の生徒獲得競争を巧に活用し、健全な財務状況を維持してまいり所存です。